

## ママたちの頑張り「おへそのあな」から見てほしい

星野さなえ（安保関連法に反対するママの会@日野）

長谷川義史さんの絵本『おへそのあな』を久しぶりに読みました。長男がおなかの中にいる頃、当時2歳の長女に読んでほしいと思って買ったものです。

この絵本では、お母さんのおなかの中にいる赤ちゃんが、「おへそのあな」から外の世界を覗いています。お姉ちゃんは赤ちゃんのために花を育て、お父さんは歌をうたい、家族そろって赤ちゃんの誕生を楽しみに待つ。風も、鳥も、世界の全てが「おいで、おいで、うまれておいで」と歓迎している。そんな様子が描かれています。

子どもに「平和」を教えたくていろいろな絵本を読み聞かせていたけど、私の伝えたい「平和」はこの絵本の中にあると感じています。誰もが大切にされ、その存在が肯定される社会が、赤ちゃんを安心して迎えられる「平和」な社会なのではないでしょうか。

### 戦争は命を否定するもの 私たちはだれの子どもも殺させない

その世界と対極にあるのが戦争です。先日、地域の集まりの中で「泥にまみれた靴で」という元日本兵たちの加害証言のDVDを見ました。その中で一人の元兵士は壮絶な虐殺の体験を語っています。丸腰の夫婦を撃ち殺し、子どもは生かしておくど復讐するようになるということから、自分の足で「赤ちゃんを踏み殺しました」と、その一言を語ったときの絞り出すような声が耳から離れません。「他の人は黙っているだけで、こんなことはみんながやっていた」とも語っていました。

証言者は見る限り、どこにでもいるような、普通の優しそうなおじいちゃんです。こういう方でさえ、子どもを当たり前前に殺すのが戦争です。殺すということは、命の存在をもっとも強い形で否定することです。そんな誰かが当たり前前に殺される、命が否定される世界を、もしも赤ちゃんが「おへそのあな」から覗いたら、とても安心して生まれてくることはできないでしょう。

安保法制施行後、危惧されているのは、自衛隊が派遣されている南スーダンでの駆けつけ警護任務です。現地では政府軍が略奪やレイプを民兵の報酬として許可しているという報告や、誘拐されたこどもの兵士も多いと言われています。証言DVDの中で語られた地獄のような世界が南スーダンの現実であり、このまま具体化が進めば、自衛官が子どもを殺したり、人権侵害行為に加担してしまうことにもなり得ます。

そんなことがしたくて自衛官になった人がいるのでしょうか。安保関連法を強行採決させた勢力は、武器を持って戦闘地域に行くということがどんなことなのか想像できているのでしょうか。

安心して生まれてこられる世界が成り立つためには、憲法がうたう「個人の尊重」が何より大切になると思います。個人を尊重するということは、一人ひとりをかけがえの

ない存在として大切にするということであって、国家や力の強い者の目的のために、人を道具や手段にさせないということです。

戦争で誰かが殺されるときには、殺す側がいます。兵士も個人として尊重されない「戦争の道具」にさせられ、人を殺します。安保関連法に反対するママの会のスローガンは「だれの子どももころさせない」です。それは、戦争による被害者も加害者も生み出さないということです。

### 「保育園落ちた」痛みに無頓着な政権への怒り

インターネット上で書かれた「保育園落ちた。日本死ね」の叫びに、お母さんたちの共感が広がり、その声が政治を動かしつつあります。私の友人にも、子どもを保育園に入れられなくて困っている人がいますが、この悲鳴に対して「誰が書いたの」とせせら嗤うアベ政治に怒りが爆発しています。この対応に象徴されているのは、庶民の痛みに無頓着で人を大切にしない、いわば愛のない政治です。

解釈については諸説ありますが、かのマザーテレサが残したと言われる「日本人はインドのことよりも、日本のなかで貧しい人々への配慮を優先して考えるべきです。愛はまず手近なところから始まります」という言葉を、安倍首相に贈りたいと思います。まさに、日本がすべきことは、テロの連鎖につながりかねない武力行使への加担などではありません。

そもそも、安倍首相の「積極的平和主義」は誤用であって、貧困、抑圧、差別などの「構造的暴力」がない状態のことを平和学で「積極的平和」と言います。保育園の待機児童問題の解決こそが、本来の積極的平和主義なのです。どこからどう見てもアベコベな政治に、子どもの未来を託せないというのが、多くのママたちの率直な思いではないでしょうか。

先日、「安保関連法に反対するママの会@日野」として、初めての企画「憲法カフェ」を開きました。企画にあたり勇気を出して身近な人に声をかけると、みんなから共感され、応援してもらえました。そのうちの一人は、主催するメンバーとなり一緒に企画を考えてくれました。当日は、はじめてこういう企画に参加したという方もたくさんいました。

カフェでは、明日の自由を守る若手弁護士の会（あすわか）の、黒澤いつき先生をお呼びして、自民党の改憲草案の内容とその怖さを学びました。「個人の尊重」を否定し、国民を国の下におくのが改憲草案の本質です。参加した方から、「怖すぎる、周りに知らせたい」との声が多く寄せられ、さっそく家に帰ってからパートナーに伝えたという方もいました。

安倍政権への支持率は特に女性の中で低くなっています。愛なき政治に気づき始めて、この危機感がたくさんのお母さんたちを突き動かしているのだと思います。

国民は日本国憲法を大事に思っているけれど、もしかしたら「プレゼント」されたと

いう感覚もあるかもしれませんが。でも、70年間も変えてこなかったのは、このプレゼントがとても素敵だったからじゃないでしょうか。私もパートナーからもらったプレゼントは、素敵なものであれば、ちゃんと大事にしています（笑）。

いま、これを改めて選び取り、本当に私たちのものにするので、「私たちが平和を守ったんだよ」と子どもに伝えたいと思います。そして、これから産まれてくる赤ちゃんたちに「おいでおいで、うまれておいで」と心から言いたいと思います。私自身は3人目の出産予定は無いですが、そうやって頑張っているママたちの姿を、「おへそのあな」から次の世代が見ていてくれますように。

2016.4 163号

